



きょうは《ジャンケン先生おもしろチャレンジ教室》の懇談会です。このコラムをご覧いただいている保護者の方、教師の方、愛読者の方々への《担任》からのお話です。

私が担任だった頃、漢字の小テストをほぼ毎日やっていました。だが、その実践の中での問題点が気になっていました。

- ◎ 漢字テストを好きな子はほとんどいない。漢字練習を好きな子もほとんどいない。
 - 漢字が苦手な嫌いな子は最初からやる気がない。やる気をどうかきたてるか。
 - 漢字テストの点数がいい子も、それ以上でも以下でもない。もっと丁寧に書こうとかの姿勢が見られない。義務的に「しかたなく」やっているだけという感じ。

この課題「苦手な子にも、得意な子にも、やる気を引き出し、よりよいものを求めチャレンジしていこうとする《学びの姿勢》を身につけてほしい」

この課題解決に向かい、6年間の実践を続けたどり着いたのが、この「漢字の秘密発見隊」です。その周辺の、微妙な工夫もあるのですが、子ども向けなので割愛しました。

教師の方は、その《微妙な工夫》も視野に入れた実践への参考になればと思います。

保護者の方へ

《漢字の秘密探検隊》を読み、「よし、こうやって教えよう」と思わないでください。家庭での指導は「ほめる」につきます。子どもが「漢字っておもしろい、漢字練習って楽しい」と思えばいいのです。そのために、「教える」のではなく、「ほめる」のです。

でも、「ほめる」と言っても、「上手に書けたね。」「漢字練習、がんばったね。」だけでは持ちません。その悩みへのヒントがこの漢字の秘密発見隊なのです。

「この画の長さ、お手本通りね。」「ここここの間、同じね。とてもきれい。」

「偏と傍の大きさがちょっと違っているね。よく気がついたね。」

「お手本、よく見ているね。」

もうおわかりでしょう。この《漢字の秘密探検隊》は、家庭での指導の仕方を説明したのではなく、子どもたちのがんばりをほめてあげる、その観点を例示したのです。

その「ほめる」によって、家庭での漢字練習が子どもたちにとって「楽しい」ものになり、「ほめてくれる家族」との絆がより深くなるのなら、望外の喜びです。

この項「漢字の秘密発見隊」は終わりです。次回から新シリーズとなります。